**2024年　3月24日　5次元ライフナビゲーター入門　原稿　校正前**

**JUJU　JUNKO　KOMIYA**

**はじめに**

**本書で言う次元とは何なのか？**

次元とは一般的にディメンションのことを表す言葉として理解されており、ディメンションとは面（フェーズ）、側面のこととして理解するのが基本だと思われますが、本書では、次元＝ディメンションをベクトルを持って説明する方法をとっていることを、まずお伝えしておきたいと思います。

私たちがここでいう2次元とは、縦と横の２つのベクトル（方向性）でできた平面の世界のことで、多少の厚みはあったとしても『紙』や『紙の書かれたことの世界』として認識することを基本としています。

次に、縦横高さの３つの方向性を持つ立体的な物質世界を３次元と呼ばせてもらうことにします。

４次元とは、その立体的な３つのベクトルを持つ３次元世界に「過去から未来に進む時間」という一つのベクトルを加えた次元とし、私たちが肉体という３次元体をもちながら、時間の枠の中に生きていると言う点から、この世界は４次元であると認識することにしています。

縦横高さという寸法のベクトルと、時間の方向性というベクトルが、ここでマージすることになるわけです。このように次元は、隣接する次元との融合をなしており、時間の概念なしに高次の世界を語ることは難しいと思われます。

従って、本書では、私たちが存在している「今、ここ」を『４次元』と呼ぶことにします。

それでは５次元とは、どんな世界なのかと言えば、縦横高さの３次元に「過去から未来へと進む時間」と言うベクトルを加えた４次元に「未来から過去へと進む時間」を更に加えた次元だと説明することができます。

この時間のベクトルは過去と未来の全方向に無数に広がっていると理解すると、５次元は無数のタイムラインのつなぎ目のような次元であり、時間のベクトルが一方向の４次元では到底できない「タイムラインの選択」をすることができる次元だと考えることができると思います。

　無数にあるタイムラインを自由にジャンプできるようになるのが、この５次元世界であると仮定して考えてみると、数年前から話題になったハリウッドの映画は、「教育的目的」を持ったものだったと理解することができるでしょう。

　私たちは、タイムラインをジャンプするジャンパーになれるという可能性が見えて来ました。もしかしたら、全方向、しかも過去と未来の双方向に向かうタイムラインから、外宇宙に出て行くことも可能になるかもしれません。

『解脱』をもってこの地球から昇華し、カルマから離脱せんとした修行僧の目論見は、５次元ライフをもって完成に近づくかもしれないのです。

少々、難しいことを書きましたが、私たちは、待ちに待った「４次元世界」からの解脱の時を迎えているように思います。

　これらの５次元ライフへの移行の情報は、どのような順番で人々に届けられるのかは定かではありません。

確実に言えるのは、年功序列ではないということと、アルファベット順などでもないということです。

また、先進国に生まれた人とか、経済的に豊かな人の順でもありません。

陰謀論に目覚めた人のことから順でもありません。

世界は陰謀や戦略によって作り上げられているということに気づいたこを「目覚める」と呼ぶ人たちもいますが、そのような世界の動向は、情報として耳に入らなくても、水槽の中に泳ぐ小さな魚が、水槽に何が起きているのかを水の動きで感じ取れるようになるのと同様、私たちが住む水槽のような世界の中の「動き」を感じ取ることで、何が起きているのかを察知したり、キャッチしたりできるようになることが「目覚める」「覚醒する」ということで、決して陰謀論に傾くことではありません。

『解脱』のための『覚醒』は、ランダムに起きて来ます。

或いは、ランダムに起きているように見えますと言ったほうが、正しいかもしれません。

この順を決めているのは、本人です。

誰かによって決められたものではなく、時限装置を自分でセットしてきたようなものだと理解すればよいと思います。

　良い人であるとか、悪人であるとかと言った基準も、あまり関係ありません。

むしろ、良い人と言われる生き方をしている人は、今までの４次元世界的な規範にのっとって生きている帰来があるかもしれないので、覚醒が近づいて来ても、なかなかビリーフシステム（信条）を変えることが難しく、来るしさを感じているかもしれません。

そして、頭では理解していても、４次元の常識にとらわれてしまい、最高の未来を描くよりも、過去の修復に時間を取られてしまいがちになってしまうかもしれないのです。

　ここ集めた５次元ライフナビゲーターの例は、覚醒につながる気づきを得た際に、それをどう５次元ライフとして転嫁して来たか、或いは、５次元ライフに至る時、どのような内的な誘いが起こるのかを、それぞれの角度からの視点で掲載したものです。

**５次元化の兆候**

５次元化が始まると、今までの常識とは異なる世界に参入していく独特の体験が始まります。

1. **身体や精神の不調を感じる。**

電磁波の影響や、化学物質敏感症、アレルギー、鬱の症状、急な視力や張力の低下等、病院に行くと自律神経失調症と名付けられるような症状が頻繁に起こるようになる。強すぎる性欲や、強すぎる眠気、食欲の減退など本能に関わる感覚に異常を感じる。過呼吸、パニック障害等で生活がしづらくなる。

　　常識的で健康的な生活から離れて行くのを感じて、飲み水に気を使ったり、気功やアロマセラピー、同種療法などを取り入れ始める。

　　この時点では、ほとんど自分のことしか考えられなくなる。

　　変化のきっかけには、原因があると考えるほうが、受け入れやすくなるので、

　　それぞれが、それなりの原因を見つけ始める。

　　例えば

　　・子供の頃に受けた虐待が原因

　　・パワハラやモラハラ、虐めが原因

　　・災害などのトラウマやPTSDが原因

　　・発達障害の傾向があることが原因

　　・水、空気、食べ物が原因

　　・その他、考えられるすべての生活上の悪影響が原因

　　自分にあった原因を見つけて、そこを入口として自分を知るプロセスに入る。

　　この時点では、何かと比較しながら、二元論的に「善悪」で判断する。

　　このように自分を把握する際に、自分の取り扱い説明書となりえる心理学や

　　脳神経科学、ホリスティックな医療などに進む人もいれば、ダイレクトに『霊訓』などのスピリチュアルな情報に向かう人もいる。

　　すべては繊細意識やアカシックレコードに書き込まれていると思う人は、催眠療法等に向かう。

　自分に起きていることの情報を得たいので、宇宙存在からのチャネリング情報を得ようとする人もいる。

このように、それぞれ、自分が取り組みやすい入口をきっかけとして、俗にスピ系と呼ばれる世界に、一旦、落ち着く居場所を見つけていきます。

そこは、今までの現実である４次元世界と隣接していて、扉一枚で区切られているような感覚の世界です。

一歩外に出れば、そこには今までと何ら変わりのない世界が広がっていて、規則に従って車が走っていたり、ダイアの通りに電車が走っていたりします。

しかし、扉の内側の世界は、全く価値観の違う異次元であり、扉の内側だけでなく、自分の内面世界も、今までのリアリティとは異なる世界に変容し始めていることに気づきます。

この頃、自分は、地球という惑星のために、なんらかの使命を持ってここに生まれたので、自分の本当の家族がいる元の星に帰りたいという感覚を覚える人もいて、地球での使命が終われば、自分の出身の星に帰ることができるというストーリーを選ぶ人もいます。

それが神であれ、宇宙人であれ、アセンデッド・マスターであれ、今、ここの世界にいる存在とは異なる高次の存在と繋がることが自分も、地球も救われる道であるという考えを基に健気な魂として生きていく人もいます。

　それは、癒すこと、癒し合うことを何よりも大切なこととして、愛と調和を目的とした生き方です。

以上が、５次元に移行する前段階の移行期に匹敵していたことだと思われます。

ここまでが二元論の世界です。

光と闇の対比で表されるような世界です。

そして、ここまでは、オールドエイジだったということに気づく必要があります。

そして、今は「来る、来る」と言われていたニューエイジに、既に突入したと認識する時に至ったと思われます。

そこで、かつてから来ると言われていたゴールデンエイジをアクエリアスの時代とすれば、今は、まさにニューエイジの始まりの時にあたり、古いシステムや観念、考え方が一掃され、新たな価値観というよりも、一人ひとりが、自分の価値観を生きることができる時代に入ったと言えます。

それは、１９９９年７の月とノストラダムスに言わしめた８月１１日の日食に始まり、NYの世界貿易センターの倒壊、２０１１年３月１１日の東日本大震災、マヤ暦の終焉等、アメリカの思想家テレンス　スタンプが２０１２年１２月２１日に、事象が時間を超えるとコンピューターからはじき出した通り、そして２０２０年からの世界的なパンデミック、２０２３年初頭の一般にAIの使用が解禁になったところから、シンギュラリティの前倒しによるAGI,ASIの台頭。

その背後では、神のパーティクルやブラックホールを人工的に作る実験や、Rnaメッセンジャーを使った人間のDNAの改ざん。

量子物理学的な世界の探求による平行宇宙、多次元世界へと繋がる研究等、今までスピリチュアルな領域、或いは人間の尊厳としてきた領域へと、跨ぎ入った結果、私たちは量子と量子の間に何もない空間を持つ、スカスカな物質であると言うことが分かり、「ある」（ポジティブまたは１）と「ない」（ネガティブまたは０）が同時に存在する量子重ね合わせと量子もつれ（エンタングルメント）が織りなす世界にいると言う認識へと移行して来ました。

　そして、その量子の動きには、観察者が。更には観察者の意識が関与しているというところから、世界の様相は、一気にかわりつつあります。

　　私たちは、出口のない、「今、ここ」から「予測のつかない未来」へと進む、不安に満ちた世界から「思いが現実になる」希望に満ちた世界」へと、一気にトランジットしてしまったのです。

　従って、それまでの身体的、精神的な葛藤は、すべて私たちが５次元化するための準備期間であり、ニューエイジが来るまでの赤い絨毯を敷きつめるような時期だったと言えるところまで来てしまったのです。

それであっても、今までと同様の４次元的なリアリティの中で生きていくことも可能です。様々なことを比較することで理解する二元論的な世界観の方が、慣れているし、わかりやすいと感じている人は、無理に変わる必要もありません。

ただ、その二元論が辛い、キツイと感じるのであれば、５次元ライフに変容することもできるわけです。

人は、幸せを感じる方向に意識的に向かってよいと言う自由を持っています。

しかし、それでも哲学的な葛藤を持つことを好しとする輩には、それも自由であると道が開かれているわけです。

さて、量子論で表されるようなリアリティの世界、ユニヴァースから、マルチヴァースという平行宇宙の連なる多次元世界へとの移行を「体感」し始めてからは、「０」の準備段階を超え、次にあげる「１．」からのプロセスをランダムにたどるようになります。簡単にまとめると、以下の10段階のようになります。

1. **気づきを得ているのに、その気持ちをうまく表現できない自分がもどかしい。**

世界の在り方に疑問を感じ、感情の起伏が激しくなる。

誰のことも何のことも愛していないし、誰にも愛されていないと感じる。

もっと表現できるようになりたいが、表現してこなかったので、困難を感じる。

２．**自分の感じているリアリティを分ちあえる人が周囲にいない。**

自分の新たなリアリティを分ちあおうとすると「馬鹿なことを言っていないで、現実を見ろ」と言われたり、「変な宗教に入ったんじゃないか？」等と揶揄されたりする。

　しかし、リアリティの変化はどんどん進み

1. **時間の長さの感覚が異なって来る。**

楽しい時間はあっという間に過ぎて、つらい時間は長く感じると言った４次元的な時間感覚を超え、時間は、自分の思い通りに伸び縮みすることに気づき始める。

　　ここまで来ると、家族などにかなり分ってもらえなくなります。ただ、わかってくれない家族は元のリアリティを生きている貴重な存在。明治維新が起きてもちょんまげを結っていた人のように以前のリアリティを大切にしていてくれるので、自分の進化のバロメーターとなってくれています。

1. **３と同時に、シンクロニシティが多発し始める。**

この頃には、シンクロニシティを共有できる新たな友人や仲間がすでに周囲にできていて、新たなリアリティに移行していない人と差別化が起きた感覚を得ています。中には、自分の方が進化しているから、理解されなくても仕方がないというスピリチュアル・エゴの上に立つ人も出てきます。

1. **スピリチュアルな学びを始める。**

それぞれの感性によって異なる入口からスピリチュアルな学びを始めるようになります。エコロジー、アロマセラピー、動物愛護、フラワーエッセンス、ヒーリング、スピリチュアル・ツアー、さまざまな占い、カラーセラピー、心理学、神社巡り、考古学、

霊感開発、リモートビューイング、サイキック開発、オーパーツ、ミステリーサークル、

量子物理学、哲学、等々、まだまだ入口となるものは沢山ありますが、自分に一番近い入口からスピリチュアルの学びを始めるようになります。

ここから更に専門的になり、今までの人間関係がガラッと変わって行きます。

**６．スピリチュアルな学びを４次元化したくなる。**

多くの人は、５で学んだ資格をもとに「好きを仕事にする」方向に向かいたくなるようです。しかし、起業するためには、５次元的なリアリティから離れて、４次元的なリアリティに舞い戻らなければならなくなるので、４次元世界を成している「時は金なり」の「お金」の部分を乗り越えて行かなければならなくなります。

４次元世界の突端には、ビジネス化を声高に叫ぶコンサルタントが沢山待ち構えていて、ここで一気に生命の木から墜落してしまいます。

**７．垣間見た５次元ライフと自分が生きている４次元ライフの違いを知る**

資格や今までの統計をもとにした分類整理では、この先、埒が明かないことに気づき、４次元ライフと５次元ライフの二拠点生活を生きることを決める人もいます。

この時点で、自分が自分に課している制限に気づくことが最大の課題となります。

**８．５次元ライフへの新たな出発が始まる**

この時点で必要になるのは、心の領域の理解よりもメタフィジックス（超物理、または量子物理学）的な構造論となってきます。闇雲に右脳的な感覚で行って来たことを、自分なりの論理に落とし込んでいくことで、5次元ライフを他者に伝えられるようになります。考え方を知りたいと言う人や、変容するためのサポートを欲する人が自然に引き寄せられて来ます。

彼らは、マニュアルやメソッドを知るよりも、５次元ライフをまさに生きている存在と接触したいと思っています。

**９．現実化に加速がかかる**

人生のほとんどは、リピートすることで成り立っているが、この時点になると一度した体験を常体化するよりも、経験したら次へ、次の経験をしたら次へとどんどん新たな経験をするようになります。この時点では、初期に感じていた「周囲の人に理解されない」という感覚は１００％消え去っているでしょう。同時に人にどう思われるか？という羞恥の心や、見栄なども消え去る代わりに、その人ならではのオーラを発するようになっています。

**１０．４次元ライフと５次元ライフの統合**

４次元体としての身体を持ちながら、意識で現実を創る５次元ライフに突入すると、６次元以上の次元世界との交感がスムーズに行われるようになります。

この時点で、死生観や世界観が変化しているので、メンターとしての言葉を発するようになっています。

また、相手をメンディングするヒーリング能力も高くなるので、周囲に癒しを求める人や案件が集まって来ます。

つまり、みんながみんな同じプロセスを歩むわけではなく、それぞれが、体験しやすいところから5次元的なリアリティの世界に入って行くと言えます。

本書には、その、一人ひとりの異なる5次元への入り口を入った経験が集められているので、現在、自分が置かれている状態を『5次元マップ』で確認するのに適していると思われます。

この中には、日常生活の中での不思議体験から、生死にかかわる凄い体験をした人まで、さまざまな体験記が書かれています。

オールドエイジの場合は、4次元の現実の外に、高次元として5次元世界があり、それをチャンネルする形でしか5次元ライフを送ることができませんが、

5次元ライフに参入した後も、従来の肉体と時間の双方を持ち合わせているので、5次元ライフの中に4次元を包括しているような状態と想像してください。

これが、ニューエイジの特徴です。